



みやち 葉子 議員

コロナ対策

一人も取り残さない補償を

商品券発行で盛り上げたい

問

コロナ問題では感染予防のため自粛を要請され、経済が疲弊し住民の暮らしを直撃した。政府は国民の声に押され住民が待ち望んだ一律10万円の給付に変更し、5月末から申請が始まった。生活支援として、給付には一人も取り残さない対策を願うが、その手立ては出来ているか。

また業者は自粛と補償は一体でこそ生き残れるが、町はそれを実行し、住民は大変感謝している。第2波、3波も考慮した経済対策が急がれるが、次なる手はあるか。

答

青木地域住民課長 10万円の特別給付金は、6月10日現在で約95%の申請率。申請がまだの方には再度申請書を送り、それでもまだなら訪問も考え、全員が受け取れるよう手立てを工夫する。

答

大西町長

新型コロナが一定落ち着けば、次は経済復興が肝心だと考える。これには行政だけでは限界があり、住民の皆さんの財布のひもを緩め、内需を拡大する必要がある。町内で利用出来る商品券を発行するため、補正予算1億円を組んだ。飲食店で利用出来る券とその他の

店で利用出来る券の2種類を発行する。

一人5千円を4千円で2万5千円分を2万円まで2種類購入出来る。全部500円券。

その他、GOTOキャンペーンに向けて、町外からの宿泊客などを対象にしたお得な券も様々な意図する。



特別定額給付金受付会場（本庁舎）

感染予防

避難所対策は

10カ所を18カ所に増やす

問

最近では毎年のように豪雨・土砂災害が日本のどこかで起きている。大雨や台風の季節になったが、避難所は密閉、密集、密接の3密になる可能性が高い。自然災害とコロナ感染との複合災害に備えた早急な対応が必要と思うが、どうか。

答

徳廣情報防災課長

新型コロナウイルス感染症等の対策として、避難所を10カ所から18カ所に増やし、避難所での感染症対策マニュアルを作成している。避難所で配布をするが、そこには特に体調管理、マスクの着用、手指消毒の徹底等を記載している。

また、今議会に感染症対策物品を整備する補正予算を計上した。内容は

アルコール消毒液、除菌ペーパー、マスク、使い捨て手袋等の消耗品と、開設避難所を増やす計画なので、簡易ベッド、エアーマットを整備したいと考えている。今後は、新たに間仕切り、個別テント等も考えていきたい。

【その他の質問】

・子育て支援について